

面白いは無量大

小玉亮子 先生(文教育学部人間社会科学科)

実は、「面白いは無量大」という言葉は私が考えたものではありません。お茶の水の女子大学附属中学校の生徒さんたちが考えてくれた小玉亮子のキャッチコピーです。2024年度の附属中学校の2年生の授業で、本学の大学教員たちにインタビューをしてその教員のポスターを作る、という授業があり、私もその対象の一人になりました。生徒さんたちは、私の研究についてあらかじめ調べて、訪ねてきて、いろいろ質問してくれました。その時に、私は、ポスターに写真を載せても良いが、できるだけ小さくすること、あとはご自由にしてくださいと言いました。

そうしましたら、出来上がったポスターに「面白いは無量大」という言葉が書かれていたのです。私は無量大という言葉を使わないので、将来のある中学生さん言葉だなあとつくづく思ったのですが、でも、私が思っていることを言葉にしてくれたと思って嬉しくなりました(ありがとうございました)。

今回、この図書館の企画の話をいただいた時に、私は「世界は面白いコト・モノ・ヒトであふれている」とどこかで聞いたことのあるようなキャッチコピーを考えたのですが、いや、やはり、中学生さんたちがくれた言葉の方が素敵だと思ったので、こちらを使わせてもらいました。

書名 / 著者等. (出版社, 刊行年月, シリーズ名)	請求記号	配架場所
1、違うことと共にあること		
ジェンダー事典 / ジェンダー事典編集委員会編. (丸善出版, 2024.1.)	367R /J36	図書館参考図書
もし、事典界というものがあるなら、近年にない事典界のベストセラーです。2024年1月に刊行されて、その年のうちに、2回再版を重ねました。ジャンルを問わず、さまざまなことについて、ジェンダーの視点から見開き2ページ(ものによっては若干違いますが)で書かれています。ジェンダーは異なることと共にあることを考える手があります。ご関心のあるところを自由にお読みいただければ、と思います。		
パレードへようこそ / マシュー・ワーカス監督；ステファン・バalezフォード脚本. (KADOKAWA (発売・販売), 2015.9)	778ZZ1-vd /W37	図書館視聴覚資料
1980年代にイギリス起った炭鉱ストライキを、LGSM(レズビアンズ・アンド・ゲイズ・サポート・ザ・マイナース)という実在の団体が、金銭的支援を行ったという、歴史的事実を映画化したものです。見終わった時に、前を向こう！と、元気になれる映画です。ちなみに、ハリーポッターシリーズに出てくるアンブロッッチ先生役の女優さんがキーパーソン役で登場しているのも、見どころです。		
エンジェルス・イン・アメリカ = Angels in America / マイク・ニコルズ 監督・製作総指揮；トニー・クシュナー原作・脚本. (ワーナー・ホーム・ビデオ (発売), c2004)	778ZZ1-vd /N71	図書館視聴覚資料
日本でも上演されてきた演劇です。私は、2024年に東京・新国立劇場で見ることができました。詳しい内容は専門家の解説に譲りたいと思いますが、1980年代を舞台にした演劇で、フィクションではありますが、実在した弁護士ロイ・コーンが実名で出てきます。同じ時代を扱った「パレードへようこそ」は共にあることの力を感じられる映画ですが、この演劇は共にあることの困難を知ることのできる演劇ではないか、と思っています。		
2、社会に生きる子どもと教育		
ベルリン3部作 / クラウス・コルドン作；酒寄進一訳. (岩波書店, 2020.2-2020.7. 岩波少年文庫)	943 /Ko79 /1-3	図書館一般図書
私は子どもの頃から漫画やコミックが大好きですが、聖地巡礼をしたのは、このシリーズの一作目の主人公が住んでいたとされるベルリンのとある場所と、ニューヨーク市立図書館だけです。原作は1980年代から1990年代にかけてターニングポイント三部作としてドイツで順次刊行された青少年向けの小説です。第一次世界大戦が終わりヴァイマル期が始まる1919年、そしてナチスが政権をとった1933年、最後は第二次世界大戦が終わる1945年を舞台に、ある家族の子どもから見た社会や政治が描かれています。私は夢中になって、この三部作を寝る間も惜しんで、ほとんど一気読みしました。		
同志少女よ、敵を撃て / 逢坂冬馬 著. (早川書房, 2024. ハヤカワ文庫)	913.6 /A25	図書館一般図書
歌われなかった海賊へ / 逢坂冬馬 著. (早川書房, 2023.)	913.6 /A25	図書館一般図書
作者の逢坂冬馬さんは数々の賞を受賞しているので、ご存じの方も多いと思います。コルドンの小説にも重なりますが、青少年が戦争にどのように巻き込まれていくのか、そして子どもから大人や教師がどう見えるのか描かれていて、どちらもとても興味深い作品だと思います。しかも、これらの小説は、エンターテインメントに満ちた小説で、スリリングな展開と圧巻の最後には、一読者として息を飲みました。		

奇跡の人 / アーサー・ペン監督；ウィリアム・ギブソン原作・脚本. (20世紀フォックスホームエンターテイメント (発売), c2001.) v.	778ZZ1-vd /P38	図書館視聴覚資料
戦争から離れますが、「奇跡の人」は、日本でも何度も上演されてきた戯曲で、1962年に映画化され、アカデミー主演女優賞と助演女優賞を受賞した名作と言われる映画です。日本の図書館の児童書の伝記コーナーには必ずあるヘレン・ケラーに関わるお話ですが、奇跡の人という言葉が指しているのは、ヘレンの先生であるサリバン先生であることは、次第に認知されるようになっていくことだと思います。教育とは何かという、難問を考える時、重要な手がかりを提供してくれているのが、サリバン先生の教育であると思います。		
One city, many children : Reggio Emilia, a history of the present. (Reggio Children, 2012.)	376TT6 /C29 /2012	図書館展覧会カタログ
イタリアの北部にあるレッジョ・エミリアという一都市で行われている幼児教育が1991年のニューズウィーク誌の「10の世界のベストスクール」という特集で取り上げられたことに後押しされて、国際的に有名になりました。そして、この本の重要な点は、ここでなされている幼児教育には、レッジョ・エミリア市特有のコンテキストがあると述べている点です。幼児教育は政治的実践であるといったのはイギリスの教育学者ですが、まさにそれを実践しているのがここでのなされた幼児教育です(来年には本書の翻訳が出る予定です)。		
3、世界から考える		
映像の世紀 : the 20th century ; 1-3. (NHKエンタープライズ (発行・販売), c2005. NHK DVD . NHKスペシャル)	209.7ZZ1-vd /E39 /1-2,B,K	図書館視聴覚資料
見ていらっしゃる方も多いと思います。もし、まだの方がおられたら、ぜひ、昔放映されたものも含めてどこからでも、ご覧ください。音楽もナレーションも素晴らしく、皆さんもどこかでこのテーマ曲を聞いたことがあるのではないのでしょうか。現在は、フェイクの映像を簡単に作ることができる時代ではありますが、しかし、現在のような技術が発達する前から、フェイクやプロパガンダの映像が作られていたことそれ自体も番組となっていて、私たちが、何をどう見るのか、考える手がかりにもなると思います。		
魂を統治する：私的な自己の形成 / ニコラス・ローズ著. (以文社, 2016.6.)	361.4 /R72	図書館一般図書
見えないことを見たい、と思っても、エスパーでもなければ他人の心の中を見ることはできません。現代の「ヒューマンテクノロジー」は、他人の考え・感情といった見えないものを可視化しようとする試みとも言えます。本書は、それが、数値化や標準化さらには、正常と異常を可視化するものとして機能していることを、第一次世界大戦の時の兵士を対象とした研究から始めて、子どもへのテクノロジーも含めて、分析されています。そして、このテクノロジーによる「統治」に最も有効だったターゲットの一つが、子どもであったという指摘は、とても重要な指摘だと思います。		
ハンナ・アーレント = Hannah Arendt / マルガレーテ・フォン・トロツタ監督・脚本. (ポニーキャニオン (発売・販売), c2012)	311ZZ1-vd /Tr7	図書館視聴覚資料
この映画を試写会で見たときの感動は忘れられません。それほど大きくない会場でしたが、終わった瞬間に観客全員が立ち上がって、拍手をし、それはしばらく鳴り止みませんでした。これ以降、私は、この映画は何度見たかわかりませんが、今でも見る度に圧倒されます。私たちにとって、「考える」ということがいかに重要なのか、本気で考えさせられる映画です。何よりも映画の最後で行われるアーレントの講義のシーンは、カッコいい！という言葉がぴったりの圧巻の講義です。		
剥き出しの帝国：レイシズムと植民地主義はいかに世界を支配し続けているのか / カインディ・アンドリューズ 著. (明石書店, 2025.)	316 /A48	図書館一般図書
本書の著者であるイギリスのブラックスタディーズの研究者のアンドリューズは「カントはレイシストだ」と断言します。西洋思想や西洋の歴史を相対化する眼差しを持つことをすでに学んできたつもりだったのに、この本は改めて、私たちのやってきたことが「ホワイトウォッシュ」ではないかと指摘し、リフレクション(反省)すべきであると迫ります。この夏、この本を通じて、私は、知識としては知っているつもりだった、という言い訳はもはや空虚でしかない、ということを痛感しました。		